



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月1日

上場会社名 株式会社あじかん 上場取引所 東
 コード番号 2907 URL https://www.ahjikan.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 足利 直純
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理本部副本部長 (氏名) 澄田 千稔 TEL 082-277-7010
 四半期報告書提出予定日 2023年2月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	35,503	4.7	398	△2.2	695	14.5	447	14.7
2022年3月期第3四半期	33,899	6.1	407	18.9	607	68.3	390	72.9

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 692百万円 (38.4%) 2022年3月期第3四半期 500百万円 (104.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	58.82	—
2022年3月期第3四半期	51.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	28,004	14,453	51.6	1,899.06
2022年3月期	24,440	13,874	56.8	1,823.01

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 14,453百万円 2022年3月期 13,874百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	16.00	16.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注2) 2023年3月期（予想）期末配当金の内訳 普通配当 15円00銭 記念配当 1円00銭

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,000	3.7	△50	—	220	△76.1	150	△76.4	19.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日（2023年2月1日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	7,700,000株	2022年3月期	7,700,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	89,053株	2022年3月期	89,053株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	7,610,947株	2022年3月期3Q	7,610,947株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、ウィズコロナの下、停滞していた景気の回復が期待される状況となりました。しかしながら、ウクライナ情勢の長期化に伴う資源価格の高騰に加え、金融資本市場の大幅な変動、中国国内における新型コロナウイルスの感染拡大、世界的な金融引締めなどを背景とした海外景気の下振れなど、国内景気を下押しするリスクも台頭しており、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、行動制限の緩和などにより、低迷していた外食・仕出し・給食業態は回復基調にありますが、資源価格の高騰や金融資本市場の変動によって仕入価格や諸経費が軒並み上昇したことに加え、鳥インフルエンザの流行によって鶏卵価格が高騰するなど、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、『需要創造型食品メーカーへの挑戦』および『利益構造改革と経営品質の向上』をテーマとした第12次中期経営計画の2年目をスタートさせ、第一に「利益構造改善への取り組み」、第二に「業務用食品事業の成長拡大」、第三に「ヘルスフード事業・海外事業の拡大および新規事業構想の立案」、第四に「経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

なお、小売業への組織的な対応力の強化、ならびに各エリアにおける競争力の強化を目的とし、第1四半期連結会計期間より業務用食品等の営業部門へ支店制を導入しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、35,503百万円（前年同四半期比4.7%増加）となり、前年同四半期実績を上回ることができました。一方、利益面につきましては、売上高の拡大効果があったことに加え、徹底的な諸経費抑制に努めましたが、当社主要原材料である鶏卵の仕入価格が鳥インフルエンザの影響を受け、繁忙期である年末にかけて大幅に上昇したほか、すり身、干瓢などの仕入価格も高止まりした結果、営業利益は398百万円（前年同四半期比2.2%減少）となりました。経常利益は、為替差益や持分法による投資利益などにより695百万円（前年同四半期比14.5%増加）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は447百万円（前年同四半期比14.7%増加）となりました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

①業務用食品等

販売面におきましては、支店制の導入により、コンビニエンスストアやスーパーマーケットを中心とした中食業態や、回転ずしチェーンを中心とした外食業態への提案・販売促進活動を強化してまいりました。また、行動制限の緩和により、仕出し・給食業態の需要が回復基調にあることに加え、地域密着型営業の推進を行った結果、国内の売上高は前年同四半期の実績を上回る結果となりました。他方、海外の売上につきましては、中国においてゼロコロナ政策により需要が減少したことに加え、中国向けの輸出が停滞したことや、北米において金融引締めなどによる景気下振れから需要が減少し、前年同四半期の実績を下回る結果となりました。

生産面におきましては、当社の主要原材料である鶏卵の仕入価格が鳥インフルエンザの影響により年末にかけて大幅に上昇したことに加え、すり身、干瓢などの仕入価格も高止まりしたことや、ユーティリティコストの上昇もありましたが、売上高の拡大に伴う生産稼働率の向上に加え、歩留まり率の改善などにより、製造原価率の上昇を抑制いたしました。

他方、売上高の増加に伴い変動費が増加したものの、経費執行の抑制などにより、販売費は前年同四半期に比べ若干の増加にとどめることができました。

これらの結果、外部顧客への売上高は32,476百万円（前年同四半期比6.4%増加）となり、セグメント利益（営業利益）は1,080百万円（前年同四半期比9.0%増加）となりました。

②ヘルスフード

通信販売は、機能性表示食品「ごぼう茶ブリ イチョウ葉プラス」をはじめとした新製品投入により、一定の売上拡大効果がありました。しかしながら、主力メディアであるTVCMの広告宣伝効率が低下したため、新規顧客獲得数が減少し、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。

他方、ドラッグストアなどでの市販品につきましては、新規開拓やインスタプロモーションの強化に加え、「Dr. ナグモの青汁」をはじめとした新製品投入による売上拡大効果はあったものの、健康茶市場の需要に一服感が見られたこともあり、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。

販売費につきましては、広告宣伝費をはじめとした諸経費の抑制などにより、前年同四半期以下にとどめることができました。

これらの結果、外部顧客への売上高は2,622百万円（前年同四半期比11.5%減少）となり、セグメント利益（営業利益）は525百万円（前年同四半期比9.3%減少）にとどまりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ3,563百万円増加し28,004百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ3,535百万円増加し15,382百万円となりました。主な増減要因は、受取手形及び売掛金の増加2,489百万円、商品及び製品の増加1,145百万円、原材料及び貯蔵品の増加333百万円、現金及び預金の減少277百万円、その他に含まれる為替予約の減少124百万円などであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ28百万円増加し12,622百万円となりました。これは、減価償却の進行に伴い有形固定資産が減少したものの、無形固定資産においてソフトウェアが増加したことに加え、投資その他の資産において投資有価証券やその他に含まれる関係会社出資金が増加したためであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,985百万円増加し13,550百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2,665百万円増加し12,223百万円となりました。主な増減要因は、買掛金の増加1,619百万円、短期借入金の増加1,020百万円、賞与引当金の減少189百万円などであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ319百万円増加し1,327百万円となりました。主な増加要因は、長期借入金の増加343百万円などであります。

なお、当第3四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ1,363百万円増加し6,534百万円となっております。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ578百万円増加し14,453百万円となりました。主な増減要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上447百万円、為替換算調整勘定の増加224百万円、その他有価証券評価差額金の増加56百万円、剰余金の配当による減少114百万円などであります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ5.2ポイント減少し51.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績の進捗を勘案し、修正しております。

詳細につきましては、本日(2023年2月1日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,831,681	1,554,239
受取手形及び売掛金	5,442,497	7,932,337
商品及び製品	2,486,121	3,631,558
仕掛品	45,177	47,320
原材料及び貯蔵品	1,434,479	1,767,553
その他	630,486	471,984
貸倒引当金	△23,161	△22,468
流動資産合計	11,847,280	15,382,525
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,765,730	3,675,814
機械装置及び運搬具(純額)	1,856,321	1,714,824
土地	3,807,276	3,809,700
リース資産(純額)	305,596	297,334
その他(純額)	436,596	556,091
有形固定資産合計	10,171,520	10,053,765
無形固定資産		
ソフトウェア	545,152	570,540
リース資産	48,789	36,418
のれん	32,909	20,568
その他	3,180	3,581
無形固定資産合計	630,032	631,108
投資その他の資産		
投資有価証券	605,662	661,683
長期前払費用	1,904	1,981
繰延税金資産	106,794	14,688
退職給付に係る資産	291,337	328,563
その他	856,157	992,503
貸倒引当金	△70,053	△62,232
投資その他の資産合計	1,791,802	1,937,187
固定資産合計	12,593,355	12,622,061
資産合計	24,440,636	28,004,587

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,769,719	4,389,640
短期借入金	4,608,860	5,629,043
リース債務	123,917	125,892
未払法人税等	176,849	54,080
賞与引当金	340,800	151,150
役員賞与引当金	—	41,157
ポイント引当金	38,247	29,281
契約負債	127,802	118,601
その他	1,371,666	1,684,692
流動負債合計	9,557,863	12,223,540
固定負債		
長期借入金	562,192	905,540
長期未払金	96,531	96,531
リース債務	269,210	244,803
資産除去債務	54,053	54,164
退職給付に係る負債	17,228	19,362
繰延税金負債	7,235	5,530
その他	1,500	1,500
固定負債合計	1,007,950	1,327,431
負債合計	10,565,813	13,550,971
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,102,250	1,102,250
資本剰余金	1,098,990	1,098,990
利益剰余金	11,256,805	11,590,315
自己株式	△64,426	△64,426
株主資本合計	13,393,618	13,727,129
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	117,198	173,611
繰延ヘッジ損益	19,697	△15,838
為替換算調整勘定	344,307	568,713
その他の包括利益累計額合計	481,203	726,485
純資産合計	13,874,822	14,453,615
負債純資産合計	24,440,636	28,004,587

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	33,899,359	35,503,163
売上原価	25,663,909	27,217,379
売上総利益	8,235,450	8,285,784
販売費及び一般管理費	7,827,663	7,886,934
営業利益	407,786	398,849
営業外収益		
受取利息	1,536	4,112
受取配当金	16,569	18,173
持分法による投資利益	34,399	57,183
長期為替予約評価益	42,864	—
保険返戻金	26,580	8,000
為替差益	62,090	289,396
補助金収入	29,220	—
その他	23,446	23,264
営業外収益合計	236,707	400,131
営業外費用		
支払利息	22,871	23,025
長期為替予約評価損	—	73,394
その他	14,314	7,393
営業外費用合計	37,185	103,813
経常利益	607,308	695,167
特別利益		
固定資産売却益	6,619	6,610
固定資産受贈益	—	300
投資有価証券売却益	34,731	3,257
特別利益合計	41,351	10,167
特別損失		
固定資産除却損	1,325	732
投資有価証券売却損	24	4,750
投資有価証券評価損	15,038	1,386
特別損失合計	16,388	6,869
税金等調整前四半期純利益	632,270	698,465
法人税、住民税及び事業税	138,733	166,487
法人税等調整額	103,202	84,302
法人税等合計	241,936	250,790
四半期純利益	390,334	447,674
親会社株主に帰属する四半期純利益	390,334	447,674

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	390,334	447,674
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△26,669	56,412
繰延ヘッジ損益	△1,553	△35,536
為替換算調整勘定	107,545	170,233
持分法適用会社に対する持分相当額	31,071	54,172
その他の包括利益合計	110,394	245,282
四半期包括利益	500,728	692,957
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	500,728	692,957
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	30,521,727	2,964,305	33,486,032	413,326	33,899,359	—	33,899,359
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	398,342	398,342	△398,342	—
計	30,521,727	2,964,305	33,486,032	811,669	34,297,702	△398,342	33,899,359
セグメント利益	991,685	579,619	1,571,305	1,387	1,572,692	△1,164,906	407,786

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△1,164,906千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,172,534千円及び棚卸資産の調整額7,628千円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	32,476,418	2,622,518	35,098,937	404,226	35,503,163	—	35,503,163
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	424,042	424,042	△424,042	—
計	32,476,418	2,622,518	35,098,937	828,269	35,927,206	△424,042	35,503,163
セグメント利益	1,080,833	525,527	1,606,361	7,843	1,614,204	△1,215,355	398,849

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△1,215,355千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,164,138千円及び棚卸資産の調整額△51,216千円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。